

平成27年度 山形県海面利用協議会 議事要点

- 1 開催日時、場所 平成28年2月2日（火）午後1時30分～午後4時
ホテルリッチ&ガーデン酒田 スカンジナビア
- 2 出席者委員数 13名（委員19名中）
- 3 会長選出 会長に白崎委員が選出された。（会長代理には遠藤委員が指定された）
- 4 議 事

報告事項

（1）平成27年度ハタハタ遊漁について

海区事務局：海区委員会指示発動（採捕方法の制限）、遊漁の状況（遊漁者数は前年度の65%、平年の67%、釣獲総尾数は前年度の25%、平年の30%）、漁業や資源状況（12月の漁獲量は前年の537%、平年の96%、資源評価は低位・減少傾向）及び巡回指導状況（違反者は認められなかった）を報告。

（2）平成28年度火光を利用した遊漁に係る光力制限について

海区事務局：平成27年度と同じ内容の光力制限に係る海区委員会指示が、平成28年度においても発動されることを報告。

（3）第36回全国豊かな海づくり大会について

豊海推進課：27年度の取組み状況として、9月と11月の1年前プレイベントをはじめ、大会記念リレー放流28回、豊かな海づくり子ども会議6回、豊かな海づくりキャラバン21回、豊かな海づくり記念行事登録54件実施したことと、今後のスケジュールとして3月に実施計画策定、4月に大会実施本部設置、6月に100日前イベント、8月に1ヵ月前リハーサル、9月に大会本番を迎えることなどを報告。

（4）「平成26年度海面利用協議会」からの継続事案

事務局：昨年度の県協議会の状況と、さらに「海の環境を守るために農林水産業全体で議論する場がないし、それだけの課題は年一回の会議では解決につながらない。」といった意見があったが、昨年度は事務局側の準備不足があった。まずは、県として沿岸海域の現状をどのように認識しているか委員にも共有していただきたいので、水産試験場長から説明していただく。

水 試：山形県の沿岸海域の現状として、磯焼けが回復していない場所が点在しているが、平成元年（1989年）ころに見られた県沿岸域全体での磯焼けは概ね回復しているという見方をしている。スポット的に点状している磯焼けも人為的にその原因を取り除くことが可能な場所であれば、小波渡の成功事例のようにそれぞれの地元で取組むことがこれからの方向性。

日本海における栄養塩の供給については、もともと栄養塩が豊富な日本海固有水が、冬季の季節風に伴う攪拌と、それに伴う200m以深までの鉛直混合という大循環によるところが大きいこと。温暖化が進むとこの大循環の規模が縮小し、栄養塩の供給規模が縮小。その結果、生物生産が縮小すること。さらに、十数年周期の水温変動が高いシフトに移る時期がやがて来るが、そのときは温暖化の影響が顕著になる可能性があることを説明。

事務局：平成25年度に策定された「山形県生物多様性戦略」の中の行動計画10では「森林と海は河川でつながり、森林から供給される栄養塩は川や海の魚をはじめとする生物を育み、豊かな海をつくる」といったことが記載されており、鶴岡市で取組んでいる「魚の森づくり活動」が具体事例と言えること。行動計画11では「森林、農地、河川、湖沼、ため池、公園緑地、沿岸など

における各種事業の実施にあたっては、野生動植物の生息・生育地の保全・再生・創出を図るため、自然に配慮した工法や資材等により、生き物の移動経路の確保に努める。森・川・海等の生態系の連続性を確保するため、関係機関相互の連携、協力を図る」とあり、酒田市で行われている国土交通省の生物多様性創出の実証実験や、環境省のプロジェクト関連行事として開催されているシンポジウムが具体事例と言えること。行動計画13では具体的に、山形県海岸漂着物対策推進地域計画により、ごみの回収や普及啓発活動等が行われており、行動計画14には本県で開催される「第38回全国育樹祭」や「第36回全国豊かな海づくり大会」のことが記載されていることを報告。

このように環境サイドでは農業、林業、水産業に学者などを交えて行動計画まで作成していたことを説明し、海面利用協議会としては規約の目的にあるとおり、海面利用者間の紛争予防や調整を行っていきたいと考えていることを説明。

遊漁者：イトヨ、アユ、ウナギ、トノサマガエル、ホタル、ヤゴ、ドジョウ、タニシ、ゲンゴロウといった生物がたくさんいた以前の環境に戻れるような、実行力のある指導をいただきたい。

座長：農林水産業も含め環境サイドの方にも意見をしながら、また県と市の連携もとりながら、どこから手を付けていくか、市民の皆さんにはどのようなお願いをしていくのかということも大切になると思う。貴重な意見は私たちもいろんな場で提供させていただく。

協議事項

（１）遊漁のルールとマナーについて

事務局：原案と事前意見及び地区協議会での意見を受けての対応案を報告し、今年の3月に3,000部印刷予定であることを説明。

漁業者：「小型定置漁業の保護区域」のページに記載されている定置網のアンカーロープの図が実態とは違っているので、説明を付け加えていただきたい。

座長：協議会の意見も踏まえ、事務局からはより良い「遊漁のルールとマナー」を完成させ、啓発についてもよろしくお願いします。

（２）２０１５年クロマグロ遊漁採捕量調査について

事務局：平成27年から始まったクロマグロの資源管理と、山形海区漁業調整委員会から依頼があった県内全てのプレジャーボートを対象とした2015遊漁採捕量調査について説明。調査票は各小型船舶安全協会を通じて会員（鶴岡130、酒田530、遊佐20）と、鶴岡市教育委員会を通じて鼠ヶ関マリーナ利用者に3月以降配布したいということを説明。

漁業者：30kg以上のクロマグロは自由に獲っていいと言うものの、はたして獲れますか。他県に合わせたような内容の資源管理に、我々は怒り心頭です。

事務局：山形は山形なりの問題を抱えているし、他県も定置における混獲問題など事情がありますが、国はとにかく国際公約を守るということでスタートしました。水産庁ではより良いものにしたいと様々な機会を設けておりますので、そうした場を通じて山形県の考え方を述べていきたいと思う。

（３）海面利用調整等について

事務局：事前に寄せられた意見や地区協議会での意見と、それらに対する可能な範囲での事務局等のコメントを記した、水上オートバイやミニボートの安全問題、防波堤での釣り、船からの落水時における対応、プレジャーボートの無灯火航行、鼠ヶ関マリーナ堤防での釣り、吹浦漁港の流入漂砂について報告。

平成27年度山形県海面利用協議会 出欠名簿（H28. 2. 2）

氏 名		主 な 役 職	選任区分	出欠
白崎 好行	しらさき よしゆき	酒田市 農林水産部長	学識経験者	出席
富山 誠一	とみやま せいいち	公益財団法人日本釣振興会 山形県支部長	学識経験者	欠席
佐藤 廣之	さとう ひろゆき	鼠ヶ関マリーナ ハーバーマスター	学識経験者	欠席
加藤 政敏	かとう まさとし	釣具店経営	学識経験者	出席
伊原 光臣	いはら みつおみ	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
鈴木 徳正	すずき とくまさ	山形県漁業協同組合 総代	漁業者代表	欠席
渡部 伸二	わたなべ しんじ	山形県漁業協同組合 総代	漁業者代表	出席
佐藤 峯男	さとう みねお	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	欠席
佐藤 清八郎	さとう きよはちろう	山形県漁業協同組合 理事	漁業者代表	出席
佐藤 初子	さとう はつこ	山形県漁協女性部 副部長	漁業者代表	出席
齋藤 賢作	さいとう けんさく	山形県小型船舶安全協会 会長 鶴岡小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
宗 雄司	そう ゆうじ	酒田小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
池田 栄	いけだ さかえ	遊佐小型船舶安全協会 会長	遊漁者代表	出席
齊藤 純一	さいとう じゅんいち	遊漁船協同組合 理事	遊漁者代表	欠席
五十嵐 博	いがらし ひろし	山形県庄内遊漁船協会 副会長	遊漁者代表	欠席
後藤 憲二	ごとう けんじ	山形県セイリング連盟 会長 酒田市ヨット連盟 会長	海レク代表	出席
（代理 大瀧利勝）	おおたき としかつ	山形県セイリング連盟 副理事長 酒田市ヨット連盟 副会長		
相星 克文	あいほし よしふみ	山形県潜水協議会 会長	海レク代表	出席
遠藤 信孝	えんどう しんこう	東北運輸局山形運輸支局 次長	国の関係行政 機関	出席
阿部 豊	あべ ゆたか	酒田海上保安部 警備救難課長	国の関係行政 機関	出席

委員１９名 （うち出席１３名）

臨席者

氏 名	役 職
本間 直光	山形海区漁業調整委員会 委員
佐藤 一道	山形海区漁業調整委員会 委員
鈴木 修	山形海区漁業調整委員会 委員
大淵 敬三	山形県漁業協同組合総務部指導課 係長
池田 勝稔	酒田市農林水産部農林水産課 課長補佐兼水産林務係長
本間 裕	鶴岡市農林水産部農山漁村振興課 主査
渡邊 博之	山形県農林水産部水産振興課 水産行政主査
鈴木 裕之	山形県水産試験場長
松田 利春	山形県庄内総合支庁全国豊かな海づくり大会推進課長
高澤 俊秀	山形海区漁業調整委員会事務局 海区漁業調整主査

臨席者１０名

事務局

氏 名	役 職
大井 明彦	山形県庄内総合支庁水産振興課長
阿部 幸	山形県庄内総合支庁水産振興課 課長補佐（漁業調整担当）
蛸井 昌二	山形県庄内総合支庁水産振興課 漁業調整主査
菅原 雅直	山形県庄内総合支庁水産振興課 月峯船長
齋藤 勝三	山形県庄内総合支庁水産振興課 機関長
佐藤 孝浩	山形県庄内総合支庁水産振興課 主任専門機関士
前田 恵美	山形県庄内総合支庁水産振興課 主任航海士
板垣 光太	山形県庄内総合支庁水産振興課 機関士

事務局８名

出席計３１名